

おはよう寺ちゃん活動中（文化放送全国10局ネット）2018年9月27日（木）放送
音声サイトはこちら（開始後27分ごろから、10分間程度です）
⇒ <http://jpnews-video.com/tera@1134/>

『原発再稼働 経済への影響は』

コメンテーター：藤井聡（京都大学大学院教授、内閣官房参与）
パーソナリティ：寺島尚正

寺島（以下、—）：ここからは藤井さんにこのテーマで話を聞きます。
『原発再稼働 経済への影響は』

四国電力伊方原発3号機の運転差し止めた広島高裁の仮処分決定について、広島高裁、おととい、四国電力の異議を認め、決定を取り消しました。

差し止めの法的拘束力、これが無くなったことを受け、四国電力は来月27日に、3号機の運転を再開すると発表しています。

一方、原子力規制委員会、昨日、再稼働をめざす日本原子力発電の東海第二原発、新規制基準に適合すると認める審査書を正式に決定したということですね。

藤井さん、この動き、いかがでしょう。

藤井：これはね、あの賛成派の方、反対の方、もちろんいるんですけど、僕はこれ、どちらのほうにとってもこれ、望ましい、あとう、喜ばしいことだと思います。

— はい、ええ。

藤井：なぜかというとな、要はあの、原発がまあそれぞれあって、対策をしてる時間もありますけど、対策が終わってるけれども審査の時間があつたわけですね。で審査の時間、まあ白か黒か、まあ稼働すべきかどうか分からなかった、ところをでも、稼働すべきだ、してもいいってことが分からないから止まっちゃってたんですね。その時間無駄ですね。

— はい。

藤井：だからホントはまあ、神様がいたら、まあ全部分かるかもしれませんが、まあ、審査はぱぱって終わるんだったら、そのあと早く動けてたわけですから。

— はい。

藤井：賛成派の方も反対派の方も、基準に適合したらいいってことでいまきてるわけですから、いちおう国としてはね。だからこれはもう早く動いてよかったと思います。そういう意味で、全国に審査がちゃんと終われば動いてもいいものっていっぱいあるはずなんですよ。

— はい。

藤井：それがまあ全部止まってるっていうのは、すさまじい国益の毀損ですよ。だから火急的速やかに、審査を全部終わらせるべきですよ。

— はい、まあおそらくいま動いてるのは6基かと思うんですけどもね。ええ。でまあ、スタンバイOKのところか、あると。

藤井：そうですね。まあもちろん、対策をやってる期間はまあしょうがないですけど。審査を待ってる時間っていうのがあるわけですから。ここをねみんなはね、忘れてるんですよ。でもこれは反対派にとって利する状況がいきまずっと続いているってことですよね。

— はい。さて東海第二原発の再稼働には法令で定める40年の運転期限であります11月27日までに安全対策の詳しい設計を記した工事計画、あと20年間の運転延長の二つの認可を得なければならず、審査終盤にあると。

原電によるとですね、防潮堤など再稼働に必要な工事の完成、2021年3月を見込んでいます。一方30キロ圏内にある周辺14の市町村は避難計画づくりを義務づけられてはいるんですが、策定のほうがですね、一部しか進んでないと。ですからたとえばその避難先の確保とかね、そういった課題が山積しているという状況のようなんですね。

この安全審査についてはどうなんでしょうか。

藤井：これはもう基準があって、それがいいかどうかの議論はさておくと、まあさておくことはほんとはできないんですけど…

— ええ。

藤井：さておくと、まあしょうがないでしょうね。

— はあはあ。

藤井：これは。あとはだからその基準というのがいいのかどうかっていう、ま、議論ですけどね。

— ええ。

藤井：たとえばでも、伊方原発のね、これがあのう再稼働が容認されたと、いう…まあ差し止めが止まったっていう…ま、話ですけど。これはね、あの、ええっと9万年前の、カルデラ噴火の、火砕流がとどいたかどうかって議論をしてたわけです。

— 阿蘇山のですよね。

藤井：阿蘇山の。

— 130キロぐらい離れているんですか。

藤井：そうですそうです。いやもちろんね、まあ、そういう基準でやらはったらええんでしょうけど、あの、なんちゅうか、9万年前ですよ。だからもう人類誕生ぐらいの時間スケールですよ。

— はい。

藤井：で～、だから日本に、こう、ホモサピエンス…あのう、が到達したん何万年前や、みたいな話ですから。ま、そんな話なんですよ。っていうのが時間スケールはそうなると。で、これ神武天皇からいっても、あれが本当だとしても、えっと、35回分？

— はあはあ。

藤井：そういうまあ時間スケールの話をしてるんだっていうこと。と、かつカルデラ噴火ってね、九州の人全滅とかそんな話ですよ。

— はあはあはあ。

藤井：だから、ま、そんな話なんですよね。

— はい。

藤井：だからそういうところからいま基準になってるんだと。

— ええ。

藤井：それがその、なんていうかももちろんね、その基準っていうのはどうやって決めるべきかっていうと、これリスク心理学とか、まあリスク科学とか、まあいろいろあるわけですけど。一般的にはリスクというものはゼロにはできないので…

— はい。

藤井：リスクを拒否することのデメリットと、受容する、つまりリスクを認めることのメリット、要するにメリットとデメリットを比べて…

— はい。

藤井：それでどっちなんだっていう政治判断、社会的判断が必要なんですよ
— ええ。

藤井：だから絶対安全を求めるとだめなんですよ。リスクっていうのは。
だったら絶対安全を求めたいんだったら、人を産んじゃだめですよ。
だって生まれた瞬間に死ぬリスクがあるんだから。
— はいはい。ええ、ええ。

藤井：（笑）あの、外で、車に乗った瞬間に交通事故があるし。と同時に、
生きてる以上、死ぬリスクがあるんだから、生きさしちゃだめでしょ。
だから子ども産んじゃだめってことになっちゃうわけでしょ。
この、哲学的にいうとね。
— ええ。

藤井：だから絶対安全だとかいうってのをね、求めるような議論に肉薄する
ような基準であるとするんですよ、いまの基準が。
— はい。ええ。

藤井：だとすると、極めて不合理な基準ですよな。
— はい。

藤井：でだから、もうずるずるにやったらいいというわけじゃないですけど
どっかに線があるわけですから…
— ええ。

藤井：メリットとデメリット。それを社会的にソーシャルアクセプタンス、
リスクアクセプタンスって、こう心理学とか専門用語ではいうんですけど。
— ええ。

藤井：そういうね、アクセプタンスの議論をすることがほんとは必要なんだ
ろうなと思いますね。
— ええ、はい。まあこの原子力発電については、もうこれはもう、
おさらいになりますけども、ラジオお聞きの方も。
7年半前ですね、東日本大震災のときに福島あの原発事故…

藤井：もちろんそうです、そうです。
— 津波によって電源が失われて、本来冷さなきゃいけないところが、
冷さずに…メルト…

藤井：そうです。

— …ダウンしちゃったってことですよね。そして、ま、他の所もどうなんだよってということで、どんどんどんどんこう止まっていった。

藤井：うん。

— で、一方で、いまだにこの反対されてる方もたくさんいらっしゃるかと思うんですけども。そのかたも、いやいや、原発動かさなくても、原発動かして、もし、もし事故が起きたときに、もう取り返しのつかないことになるんだよ、と。

藤井：ええ、ええ。

— だったら火力発電とか水力発電とか、まあ自然エネルギーの発電とかそういったものでやればいいじゃないですかと。

藤井：そうですね。

— こういう意見かと思うんですけどもね。

藤井：そりゃそうですね。そうやって、その、デメリットとメリットを考えるわけですけど、ま当然ながら、原発が動いていることのデメリットはいまおっしゃったように当然、あるわけですよ。事故があるかもしれない。

— ええ。

藤井：じゃあ、動かさないことのデメリットは何なのかっていうと、これは確実に、年間、何兆円もの経済損失が生まれるんですよ。

— はい。

藤井：じゃあ、何兆円もの経済損失が確実に生まれることと、9万年に1回とかのリスク事象に対して配慮することとのまあ、メリット、デメリットなんですよ。

— はい。

藤井：でまあ、お金ですむ話やったらええやないかと。ま、思われるかもしれないんですけど、数兆円のお金が減るということは、これは何人どころか何十人、何百人、何千人の人が死ぬということなんですよ。

— はい。

藤井：これはあの、経済的に冷え込むと、それでもう自殺するかたも出てくれば、そのお金さえあれば助かる医療技術が適応できなくて死ぬ人もいる

んですよ。だから経済損失っていうのは、なんか命と関係ないように思いますけど…

— ええ。

藤井：そりゃ2、3万やったらそうかも知れませんが。何兆円ということになると、その、暴力的な数字なんですよ。それは、人を殺せるんです。だから原発を動かさないことによって、いま人が死に続けているという現実がある可能性は、極めて濃厚なんですよ。

— はあはあ、ええ。

藤井：でそれと、その、動かすことのデメリット。

— はい。

藤井：ま、これをね、ちゃんとね、両方からみで社会的に、理性的に大人の判断をしていく必要があると思うんですよ。

— ええ。まあ今回、その地震です、北海道のね。北海道電力の泊原発再稼働に向けた安全審査、5年過ぎても終わらなかった。9月6日、ご存知の通り北海道を襲った地震で、全域停電。例のブラックアウト。非常事態を招いてしまったという、こういう指摘もあるんですよ。そうすると、まあ一つの考えとして、泊原発が再稼働していれば、ブラックアウトは防げたのかと。ええまあ、北海道電力は再稼働後の発電量などの仮定が多すぎて、答えられないということなんですけれども。まあでも、苫東厚真（とまとうあつま）火力発電所にね、そのう、北海道内の電力供給の過半数、まこれを頼っていた、一本足打法なんていわれてましたけど。

藤井：そうですね。うん。

— まあこの状況が大きく違っていたことは、まちがいないんじゃないかという…ことなんですけどね。

藤井：そうですね。これはね、あの慎重に議論する必要はもちろんあるんですが、このブラックアウトをしまったと。そのためにはいろんな理由があって、逆にいうと、ブラックアウトをしないような状況をつくるためにどうしたらいいのかっていう。

ということはいくつかのシナリオが考えられるわけですよ。そのシナリオの一つに、泊原発が動いていればというシナリオがあることは間違いないですよ。そして、最も現実的なシナリオと考えることも、一応できるんで

すよね。それ以外のもう少し火力発電所を新しく作っておくとか、これ作るにも、ま、10年とか、かかったりとかするんですけど。
現実的な、ブラックアウト起こさないシナリオの一つに泊原発再稼働って
いうのがあったっていうのはこれは否定しようがないですよ。これさえ
動いていれば、大なる可能性で、これはまあ、あの北電はね、確定はでき
ないからこういう言い方になってるかもしれない、ですけども。大なる
可能性でブラックアウトは起こらなかった、まあもっとぶっちゃけていう
と、「そらおこってないやろ」というような状況であったというのも事実
なわけですよ。とすると、あの動かすことのメリット、デメリットとい
うなかに、僕はデメリットの一つとして、お金がなくなり人が死ぬ、とい
うことも言いましたけど、こういう災害の時にブラックアウトするという
デメリットもあったという疑義が今日は極めて濃厚なんですよ。

— はい。藤井聡さんでした。

{おわり}